

平成25年度 都城商業高等学校 自己評価 および 学校関係者評価

<b>学校経営ビジョン</b> <b>自信と誇り、高い志を持つ自立した経済人の育成を目指し、地域および県民の負託に応える学校の創造</b>	<b>[学校関係者評価のポイント]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の項目や指標は、適切に設定されているか。</li> <li>自己評価の結果は、具体的方策・指標等をもとにした妥当なものであるか。</li> <li>自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</li> </ul>
<b>本年度の重点目標</b> <b>(1) 学力向上</b> 普通教科、専門教科を問わず、授業を通して高い教養と専門性を身につけさせ、産業社会に貢献できる生徒の育成を目指す。 <b>(2) 自律した品格ある生徒の育成</b> 本校生徒としての誇りを持ち、言動に責任のある自律した品格のある生徒を育成する。 <b>(3) 部活動を通して高い人間力を持つ生徒の育成</b> 体育系部活動・文化系部活動とも、本校部活動の輝かしい歴史を継承するとともに、さらに高い目標に挑戦する。 競い合い、助け合い、学び合う中で、高い人間性、人間力を持つ生徒の育成を図る。 <b>(4) 地域文化を担い、貢献できる生徒の育成</b> 地域社会と積極的に様々な交流を行うことで、生徒の見識を広めさせ、社会性や公共心の育成を図る。	

4段階評価	4：期待以上	3：ほぼ期待通り	2：やや期待を下回る	1：改善を要する
-------	--------	----------	------------	----------

**[学力向上] 普通教科・専門教科を問わず、授業を通して高い教養と専門性を身につけさせ、産業社会に貢献できる生徒の育成を目指す。**

評価項目	具体的方策 または 指標等	取組の成果と課題 および 改善策等	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
① 教科として質の高い、魅力ある授業への研究および工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>「公開授業」の強化期間を設け、同一教科・他教科相互に参観できる機会をつくり、授業研修を深める。</li> <li>教員の授業力の向上を図るため、各教科の「研究授業」を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に比べ、公開授業の実施回数が増えた。また、教科会での授業研修もあり、一定の成果をあげることができた。</li> <li>研究授業を計画的に実施できた。次年度は、さらにこれを充実させていくと共に、生徒による授業評価も導入していきたい。</li> </ul>	3	3	① 公開授業、研究授業ともに、学校の努力が見られ、成果もあがっていることは良いことである。生徒による授業評価は必須。今後に期待したい。 ③ 生徒の皆さんが、非常に高い学習意欲持ち、取り組んでいる様子が窺える。同時に、それに応えるために先生方が真剣に向き合っている姿勢を見ることが出来る。 ③ 概ね良いと感じる。家庭学習の習慣がついていないと、進学してからが大変と聞く。ただ、時間の目安というより、効率のよい勉強のやり方を個々人で探らせ、身につけさせることが有効ではないかと思う。
② 生徒の進路目標に応じた教科指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期制の特色を生かし、前期と後期で異なった教科・科目を配置するなど、生徒の進路実現に適った教科指導を行う。</li> <li>カリキュラムの編成にあたって、生徒の進路目標等を考慮した選択科目や学校設定科目の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の特色である2学期制のメリットを生かした教育課程の編成を行い、生徒の進路希望に合わせた授業を展開できた。</li> <li>新学習指導要領の導入に合わせ、教育課程編成を行っているが、さらに工夫・改善が必要である。</li> </ul>	3		
③ 生徒の自己学習力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査前に、宅習調査を実施することにより、学習に対する生徒の意欲喚起を図る。</li> <li>宅習調査の結果を集約し、学級担任や教科担任へ還元し、今後の学習指導に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的にみると、生徒はよく努力しており、学習成績による原級留置の生徒はいない。生徒個々を見ると、学習に対する意欲が少ない生徒が見られ、指導しなければならない。</li> <li>家庭学習の習慣化が不十分である。部活動との両立に難しい面もあるが、家庭学習の時間の目安などを作り、喚起していかなければならない。</li> </ul>	3		
④ 資格取得の推進 (各種検定への挑戦)	<ul style="list-style-type: none"> <li>検定試験前に受検者全員に対して、合格を目指し、課外を実施する。</li> <li>高度資格取得を目指す受検者に対しては、計画的に早朝課外を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検定試験前の課外については、生徒は真面目に取り組んだが、思うような結果が出なかった。 3年生(卒業生)の全商検定3種目以上1級取得者は87名であった。</li> <li>高度資格を目指す生徒への課外の対応は良かった。受講者がやや減少傾向である。 今年度、高度資格取得では、基本情報3名、ITパスポート5名、日商簿記2級40名、STEP英検2級3名、STEP英検準2級22名、秘書検定準1級1名の合格者が出ている。</li> </ul>	2		
⑤ 3年間を見通したキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じた進路ガイダンスを、計画的に実施する。</li> <li>企業視察(1年)、インターンシップ(2年)、進路別学習会(3年)を行い、進路意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3学年では、既設の行事日程(学年保護者会・全校集会等)の他、様々な独自ガイダンスにおいて、生徒自身のキャリア形成を見据え、進路意識を高めさせることはほぼ予定通りできた。ただ、1・2学年では既設行事以外での実施は不十分であった。</li> <li>企業視察、インターンシップ、進路別学習会は予定通り実施できた。今後もキャリア教育の充実に向け、努力していきたい。</li> </ul>	2		
⑥ 生徒全員の進路保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎力診断テストを実施し、進路実現に必要な基礎学力の向上に努める。</li> <li>全職員による面接指導や小論文指導を計画的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職内定率は、ほぼ100%。進学では国公立大学合格者の増加を始め、質的にも向上した。基礎力診断テストの分析によると基礎学力の低下が懸念される。今後、各教科において学力向上の具体策の必要性を感じる。</li> <li>進学指導面では、「小論文」指導を全職員で取り組む体制は出来たが、指導力の向上は今後の大きな課題と言える。 国公立大学に28名の合格者が出ている。(平成25年度12月27日現在)</li> </ul>	3		

4段階評価	4：期待以上	3：ほぼ期待通り	2：やや期待を下回る	1：改善を要する
-------	--------	----------	------------	----------

【自律した品格ある生徒の育成】 本校生徒として誇りを持ち、言動に責任ある自律した品格ある生徒を育成する。				
評価項目	具体的方策 または 指標等	取組の成果と課題 および 改善策等	自己評価	学校関係者評価
① 元気な挨拶の励行	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の登校時間に、生徒・職員で校門での挨拶運動を行う。</li> <li>「挨拶」の持つ意味や大切さ・その力が、コミュニケーションを行う上で、非常に重要なものであることを生徒に伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校状況で生徒の変化に気づくことが多かった。今後も全校で取り組めるような挨拶運動を展開し、活気ある学校を目指したい</li> <li>始業時の挨拶や授業時の発表・音読等、大きな声を出すよう指導した。このような指導を日頃から意識して継続していきたい。</li> </ul>	3	4
② 校則、交通法規、IT機器マナーなど 遵法精神の涵養	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な挨拶やマナー、並びに服装・容儀等の指導を充実させる。</li> <li>全校集会や学年集会等で、高校生としての自覚や規範意識および責任を持つことの大切さを啓発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な服装・容儀検査をなくし、常時指導に切り替えたことで、生徒の意識が高くなった。ルールを守るだけでなく、地域の模範となるようなマナーを身につけさせていきたい。</li> <li>交通安全に対する集会等を増やすことで、生徒の規範意識が高まり、交通事故は減少傾向にある。</li> </ul>	3	
③ 積極的生徒指導の推進（面接指導の強化、生徒理解、保護者との連携、啓発活動、問題行動の早期発見・解決）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導上の諸問題に適切に対応すると共に、職員の共通理解のもと、迅速な手立てをとる。</li> <li>学年会や教育相談室との連携を密にし、問題行動や不登校等の未然防止・早期発見に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動に対して、全職員で取り組めるようになってきた。問題行動の件数は微増、保護者との連携の必要性を感じている</li> <li>年4回の生徒アンケートと年2回の教育相談週間を行った。生徒の声に対して、すぐに行動できた。生徒が相談できるきっかけとなった。</li> </ul>	3	
④ 生徒主導による学校行事の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動をはじめ、生徒の主体性を重視した行事運営を心掛ける。</li> <li>学科長（生徒）を活用して、生徒主体の活動を企画・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会が意欲的に挨拶運動や行事運営を行えるようになった。</li> <li>学科長を中心に下級生への指導を、終礼時に行うようにした。話す態度、聞く態度も良く、有意義な時間となった。継続して行っていきたい。</li> </ul>	3	
⑤ 授業規律の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>「朝の読書」によって、落ち着いた雰囲気の中で、学校の日が始められるように、生徒の意識の確立を行う。</li> <li>授業の始めと終わりの挨拶・礼法など、日頃から授業を受けるに当たっての心構えを指導し、授業規律の保持に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「朝の読書」は、その目的を十分に果たしていると思うが、着席について職員の促しが必要なクラスがある。今後、一層生徒の自覚を高める必要がある。</li> <li>全体的に、生徒はよく挨拶をしている。学校行事や授業での挨拶指導を行っているが、TPOにあわせての挨拶や礼法が不十分である。</li> </ul>	3	
⑥ 学校保健と安全指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健教育指導を充実させ、自主的に健康管理のできる生徒を目指す。</li> <li>火災や地震など、防災教育を行うことにより、危機管理に対する能力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食に関する内容の保健講話を実施した。また、生徒を対象にしたAED講習、3年生を対象とした薬物乱用防止教室も実施する予定である。</li> <li>避難訓練を実施し、成果があった反面、内容については事前に日程を公表しない等再考し、より意義深い訓練にしていきたい。</li> </ul>	4	
⑦ 清掃活動と環境・美化意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃時間を有効に活用し、敏速な行動・効率のよい作業を行う。</li> <li>毎日の清掃、身の回りの整理整頓を行わせ「心地よい学習環境」づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境美化委員会による校内放送を毎日行っている。清掃開始までに時間がかかっている。清掃場所に「担当者表」を貼ることにより、責任感を持たせることができた。</li> <li>1年生のゴミの分別体験やトイレ清掃の点検などを行ってきたが、生徒の美化意識を高める工夫がさらに必要である。</li> </ul>	2	
<p>① 元気な挨拶、とても気持ちがいい。立ち止まって挨拶をしてくれる生徒さんもいて嬉しくなる。</p> <p>① 挨拶は、コミュニケーションを行ううえで重要であり、積極的な取り組みは大いに評価できる。</p> <p>① 学校周辺での挨拶については、大変良いことであるが、一歩離れてしまうと全く聞こえてこない。</p> <p>② 学校外でも、制服の乱れや頭髪の乱れなど見かけることもなく、気持ちが良い。</p> <p>② 「社会の一員としての教育」として親元を巣立つ時のための心構えをこの時期に、選挙権行使、年金、自治会など。</p> <p>③ 学校の努力が結果を生んでいる。</p> <p>③ 生徒が相談しやすいきっかけづくりや全職員での取り組み姿勢を高く評価したい。確かに、保護者との連携が大事と感じる。</p> <p>⑥ 昼食時の生徒たちの様子はどののだろうか。また、食事内容は十分なのかも気になる。</p> <p>⑥ 「タバコ・アルコールの健康への害、依存症の怖さ」をこの時期に学んでおくとよいと思う。</p> <p>⑦ 清掃の「担当者表」は良いことである！ 生徒間で意識の向上が図られることを望みたい。</p>				

4段階評価	4：期待以上	3：ほぼ期待通り	2：やや期待を下回る	1：改善を要する
-------	--------	----------	------------	----------

**【部活動を通して高い人間力を持つ生徒の育成】 体育系部活動・文化系部活動を問わず、本校部活動の輝かしい歴史を継承するとともに、さらに高い目標に挑戦する。競い合い、助け合い、学び合う中で、高い人間性、人間力を持つ生徒の育成を図る。**

評価項目	具体的方策 または 指標等	取組の成果と課題 および 改善策等	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
① 生徒の部活動100%加入の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動への全員加入を推進し、部活動の活性化を目指す。</li> <li>部活動の未加入者集会等を開催したり、各担任・顧問から未加入者への入部の呼びかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動は、94.3%の加入となった。2年生に未加入が多い。途中入部できるような形を作っていきたい。</li> <li>未加入の生徒は個別に部活動に入部するよう声かけを行っているが、思うような成果にはつながっていない。</li> </ul>	3	3	① 部活動を勧めたり、途中入部しやすい環境づくりは重要であると思うが、学校側が把握していない社会活動、学習、家庭の事情もあることへの理解を求める。 ② 各種大会、競技会においては、良い成果が出ていると思う。 ③④ 部活は、先輩・同輩・後輩といった社会生活を営むうえで、非常に重要な人間関係の在り方を学ぶ場であることから、部活動の活発な活動を図っておられることは、大いに評価できる。 ③④ 校内、他校生徒間の交流に加え、その部活動分野関連の地域の大人との交流にまで発展するとよいと思う。→(地域社会との連携、学校の情報発信)
② 上位入賞への意識高揚(高校総体・高文連大会・商業系の各種大会等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種大会、競技会において、No.1への意欲を高め、生徒の意識の高揚に努める。</li> <li>また、高文連関係の大会において、上位入賞を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女子バレーボール部、男子ソフトテニスの団体優勝等、例年以上の成果を残すことができた。個人でも卓球、柔道、弓道、陸上等、上位の結果を残した。ワープロ、珠算電卓も九州大会に出場した。吹奏楽部はコンクールで県1位に輝き、全国高総文に出場した。</li> </ul>	3		
③ 生徒・保護者への部活動の教育的意義・目的の啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>機会あるごとに、生徒・保護者に、部活動の果たす役割について話をしていく。</li> <li>精神力・人間性育成の側面のみならず、進路実現のためにも、部活動に加入する意義があることを説いていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の意義・目的、実績をPTA総会や学年PTA等で話題にすることにより、保護者の理解や協力体制ができてきている。学習との両立ができるような日常的な指導が課題である。</li> <li>終礼等で、上級生が部活動の意義を生徒の目線で話をしたことにより、下級生の心に伝わっていった。</li> </ul>	3		
④ 部活動を通しての高い人間性や人間力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動が勝利至上主義ではなく、人間性を磨くことを第一義としていることを前提に指導する。</li> <li>部活動が、生徒の人間形成を支援していくものであることを説いていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝夕の清掃や挨拶運動等、部活動を通して何を学ぶかが定着しつつある。挨拶運動に参加する部が増えてきている。</li> <li>学校全体を部活動生でリードできるようキャプテン会等を数回開いた。</li> </ul>	3		

**【地域文化を担い、貢献できる生徒の育成】 地域社会と積極的に様々な交流を行うことで、生徒の見識を広めさせ、社会性や公共心の育成を図る。**

評価項目	具体的方策 または 指標等	取組の成果と課題 および 改善策等	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
① 保護者・同窓会・地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA関連行事(PTA総会、学年別保護者会、PTA親睦ミニバレーボール大会、文化祭PTAバザー等)を、計画的に企画・開催する。</li> <li>同窓会等との連携を密にし、協力を得ながら、次年度の創立110周年記念式典・祝賀会の開催に向けて取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAの役員さんと連携を図りながら、各種PTA行事を無事に行うことができた。特に、県高P連都北地区秋季研修会・母親研修会は本校が当番校であり、成功裏に終わることができた。</li> <li>創立110周年記念式典(記念講演を含む)・祝賀会の具体的な日程(平成26年10月25日(金))や開催場所(都城市総合文化ホール)を決定し、準備を進めている。</li> </ul>	3	3	① 創立110周年記念式典の成功を！ ① 次年度は、県産業教育振興会都城地区の当番校とのこと、平成25年度高P連都北地区当番校での連携力を発揮してほしい。 ① 創立110周年に向けて行事を進められているとのこと、できることならば生徒を中心とした実行委員会を立ち上げてはどうか。少しでも、係わることもよい経験に繋がると思える。 ② 商工会議所、行政、地域、企業等との更なる協力体制を望む。 ② 地域活動との連携は、実社会を知るうえで重要であり、積極的な取り組みは、大いに評価できる。 ② 学校の協力、努力が窺える。「要請があれば」ではなく、生徒たち自ら外部と関わろうという積極的意志が高まることを望みたい。 ② 個人で地域と結ばれて活動している生徒たち(ジュニアリーダーなど)を学校は把握し、協力・評価をする必要があると感じる。 ③ 中学生に加え、都商生の就職先となり得る企業・店・その他へ、広く情報発信すべきである。変化・進化の進む高校の状況を知らないままの企業等もある。
② 地域行事・ボランティア活動等への積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と地域との連携を推進し、「地域に開かれた学校」を目指す。</li> <li>学校に要請のあった地域の行事等については、常に協力を前向きに検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、販売実習を校内で実施したが、来場者は多かったと考える。今年度の反省を踏まえて、来年度の実施場所については検討していきたい。</li> <li>市役所の要請により、チャレンジ・ショップの臨時販売を行った。また、農業高校との連携による6次産業化に向けた取り組みについては、現在進行中である。福祉部を中心としたボランティア活動、及び部活動生による校外清掃を行った。吹奏楽部は、老人ホーム訪問演奏や地域イベントでの演奏を数多く行い、地域に貢献することができた。</li> </ul>	3		
③ 学校の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページ、学校案内リーフレット等を充実させ、中学生を意識した情報の広報に努める。</li> <li>学級便り、図書便り、保健便りなど、家庭で親子の会話ができる情報の提供に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会、中学生一日体験入学のほか、今年度はオープンスクールや出前授業案内、さらに学習塾訪問などを行った。また、学校HPの更新や学校案内を作成し、学校のPRに努めた。</li> <li>毎月発行する保健便りでは、本校の実態に応じた保健情報を発信し、保護者との情報交換に努めた。また、図書便りも定期的に発行し、新刊の案内等を行った。</li> </ul>	3		